

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	地域の多様な人つながりながら若者が地域の 活性化にチャレンジする	福井県 越前市
アイデア名 (注2) (公開)	創造的で懐かしく、多世代が共存できる場所—『Third School』		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	仁愛大学早川ゼミ チーム「3 PEACE」		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム	<input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム	<input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	5 名		
代表者情報	氏名 (公開)	幸明 奨	
メンバー情報		伊藤 有紗、池端 希彩、南 純佳、中川 莉緒	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

#### (1) 商店街が「町の顔」として機能していない

モータリゼーション等の影響で、郊外の大規模小売店舗へと人が流れてしまったために、人通りが少なくなっている。また、中心市街地における高齢化率が年々増加傾向にある中で、後継者不足などの問題から、空き店舗が点々としている。こうした現状から、「町の顔」となる商店街ではなく、「さみしい」印象を与える商店街となっている。

#### (2) 空き店舗の現状

中心市街地の多くの空き店舗が店舗と住居を兼ねた併用住宅の構造であり、通りに面した空き店舗部分の一部で、整理整頓が不十分な状況が往来の人たちに丸見えになっているなど、「さみしい」印象を与えている。

#### (3) 商店街において、生じる価値観のギャップ

9つの商店街の地域の人々、それぞれが考える商店街の在り方について価値観にギャップがある。かつての賑わいを取り戻したいと思う人、今の生活を変えたくないと思う人など、商店街への思いに断絶がある。

<解決アイデアの内容>

### 本事業の概要

創造的で懐かしく、多世代が共存できる場所『Third School』

### ビジョン

武生の商店街で暮らす人々と世代や国籍の異なる多様な市民がお互いのノウハウを共有し、相互に教えあい学びあう場所として、商店街全体をゆるやかな一つの学校と見立てる。そして、ここでの学びは、お年寄りには若者に、若者にはお年寄りに世代を超えて、また、外国人と日本人とが国籍を超えて、昔からある商店街の資源＝ヒト・モノ・コトを大切にしつつ、商店街の現状に適応させ、ここで共存する人々のナレッジによって足りない部分を補完することで、創造的で懐かしいものにする。

### 『Third School』とは

#### ～由来～

コミュニティにおいて、自宅や職場とは隔離された心地のよい第3の居場所を指す『サードプレイス』という言葉に由来しており、商店街をサードプレイスのような自分にとっての特別なもう一つの学び場にしてほしいという思いをこめ、『Third School』と名付けた。

#### ～仕組み～

▼4つの商店街・繁栄会内の店舗で、毎週日曜日の9:00～15:00の時間帯だけ開校される。

▼ターゲット（利用者）は越前市民。中でも中心市街地の高齢者は利用者と提供者の2つの面で重要である。

▼5つの教室＝コミュニティスペースを設ける。

① **音楽室**：中央広小路商店街「Rag time Classics」

→様々なジャンルの音楽やライブ、カフェを楽しむだけでなく、展示等も行う部屋。

【理由】共通の趣味を通し、常連さんが集う場所となっているこの店を活かし、性別・年代を問わない多くの人にこの

教室に気軽に訪れてもらい、賑わいの拠点とする。

②**情報室**：中央広小路商店街「仁愛大学駅前サテライト」

→若者・学生がお年寄りに情報機器（スマホ・パソコン等）の使用方法を教える部屋。

【理由】若者・学生が、授業等の枠組みをこえて、自分たちが保有するリソースを高齢者に提供することによって、高齢者の情報格差問題やデジタルデバイドを解消する。また、ただ提供するだけでなく、若者と高齢者がコミュニケーションをすることにより、世代を超えたつながりをもつ。

③**家庭科室**：善光寺通り繁栄会 空き店舗の一店舗を利用する

→越前市の郷土料理（Ex.越前そば）が伝授され、調理し、味わう部屋。

【理由】高齢者が多いことを逆手にとらえ、根付いてきた・眠っているモノコト（郷土料理）を伝承できる人が大勢いるからこそ、「場」をもうけることで、なくさずに多世代に受け継いでいくことができる。

④**図工室**：総社通り商店街 空き店舗の一店舗を利用する

→越前市の職人が伝統工芸品の魅力を伝え、体験も行う部屋。

【理由】9つの商店街の商店の中に何店舗かに、伝統工芸品を扱っている店が存在するが、その歴史や魅力をより発信する場として、職人や専門家が越前市の伝統工芸品である**越前和紙・越前打刃物・越前筆筒**の体験型セミナー等を行い、その魅力を伝え、伝統的工芸産業の発展にもつなげる。

⑤**文化室**：武生本町通り繁栄会

→居住者であるブラジル人に地域の文化を伝え、サッカーやサンバなど彼らの文化も理解する異文化コミュニケーションを行う部屋。

【理由】平成30年4月1日現在の越前市の外国人数は4,056人（総人口の4.9%）であり、中でもブラジル人の割合は外国人全体の約7割を占め、2,951人となっている。外国人市民（ブラジル人）と地域の人々がうまく共存できる文化やマナーを教え合うことで、グローバルな視点で多文化共生の街づくりに貢献できる。

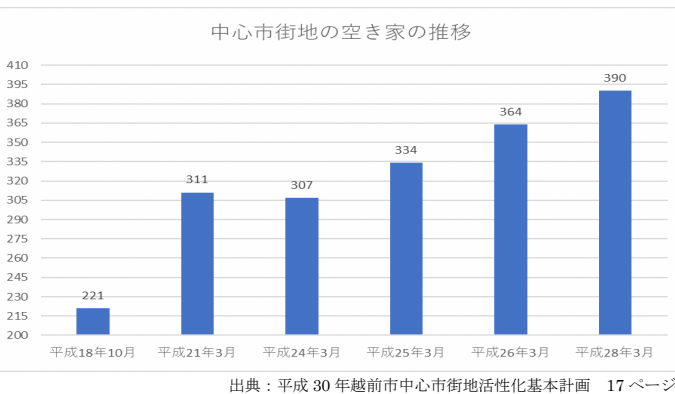


図1：『Third School』イメージ

## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

図 2-1 <商店街の空き家について>

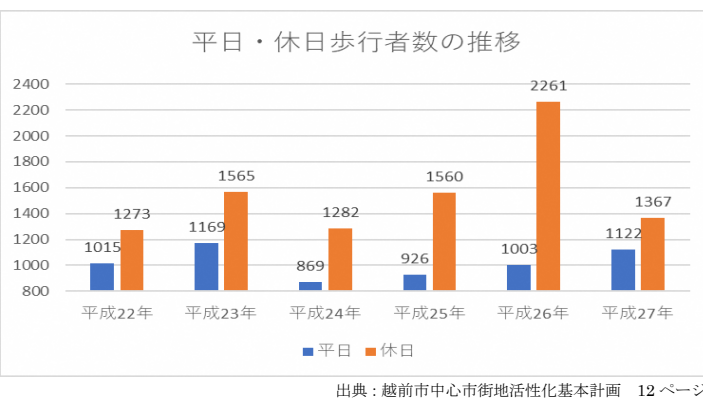


中心市街地の空き家の数は、平成18年10月から平成28年3月まで年々増加傾向にある。空き家が増えることによって商店街の治安の面や老朽化に伴う倒壊の危険性、景観の悪化など、地域のブランドイメージが損なわれる。



**そのためにも空き家を減らすことが  
最優先課題なのではないか！**

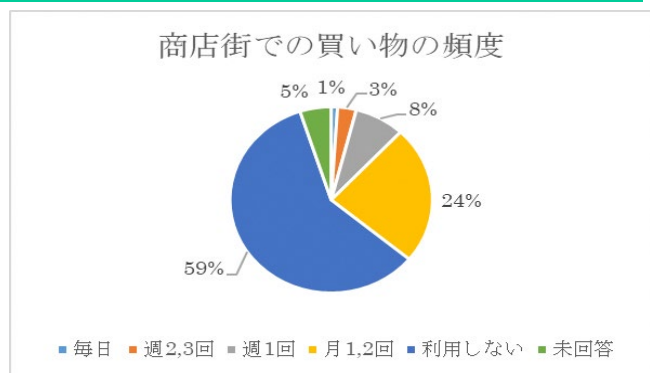
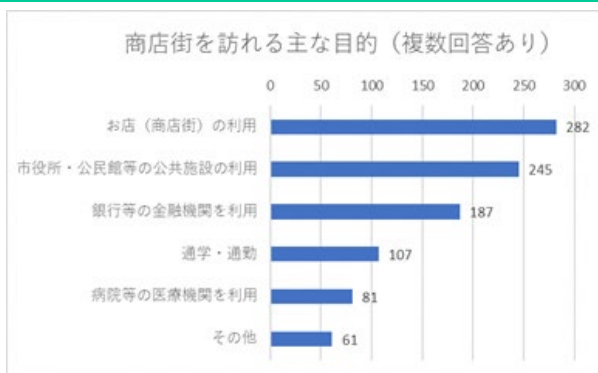
図 2-2 <商店街の歩行者について>



平成22年から平成27年の平日・休日の歩行者を見ると、どの年も平日に比べ休日の方が歩行者の割合が多いことがわかる。また平成26年に休日の歩行人数は増加していたものの、平成27年には前年比で約半分に減少していることもわかった。

では何の目的で商店街を訪れるのだろう？

図 2-3、図 2-4 <商店街を訪れる目的>

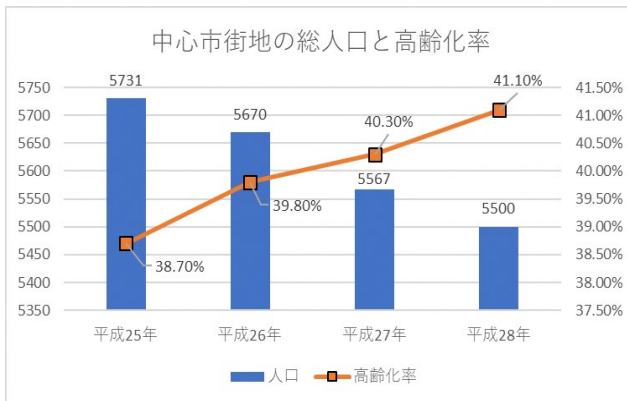


越前市中心市街地活性化基本計画で行われたアンケートによると商店街を訪れる人の目的として「お店（商店街）の利用」が最も高い。しかし買い物のために商店街を訪れる人は全体869名中の36%ほどで利用しない人は59%に上った。これは駅前の大型小売店に顧客が流れているのではないかと考えられる。



**この問題の解決に『Third School』の循環が貢献できるのではないか**

図 2-5 <商店街の人口について>



出典：平成 30 年越前市中心市街地活性化基本計画 5 ページ

中心市街地の人口は年々減少傾向で、かつ、高齢化率は年々上昇している。高齢者が増えると、孤独死などのリスクを内包する可能性が高まる。



高齢者と多様な人々との新たなコミュニティをすることで、コミュニケーションが活発化し、リスクの解決に貢献するのではないか。

\* 高齢者は 65 歳以上の人のことを指す。

\* 高齢化率は (高齢者の人口) ÷ (総人口) × 100 で表す

このような統計データによって、アイデアの必要性が明らかとなった！

では次にさらなる根拠を求め、インタビュー調査を行った。

2018 年 11 月から 12 月にかけて延べ 5 日間、計 6 店舗にインタビュー調査を行った。  
また 9 つの商店街・繁栄会でフィールド調査を行った。

<商店街の人にインタビューを行い、生の声を聞いてみた！>

ふれあいの場が必要  
(フリースペース/50 代女性)

いろんな人に来てほしい  
(カフェ店主/60 代男性)

人通りが少ない  
(服屋店主/50 代男性)

若者が少ない  
(カフェ店主/60 代男性)

💡 多世代の人がコミュニケーションのとれる場所や、人が集まる場所が必要では？

● きものと洋品 おやなぎ 大柳氏

大柳氏は「発展させたい気持ちはある」と、商店街の発展に対し前向きな意志を語る。

● 909 塚本氏

「このままでいい」と、商店街を発展させることをあまり望んでいなかった。



商店街に対しての思いは、様々……

💡 新しく発展させるだけでなく、現在商店街にあるお店も大切にしていかなければいけない！

● 仁愛大学駅前サテライト 長谷川氏

学習支援活動 (Ex. 府中寺子屋)、高齢者同士の触れ合いの場 (Ex. 高齢者ふれあいの集い) をもうけている。高齢者の人たちは日ごろ若い人々と交流する機会が少なく、サテライトで若い人たちを見ているとパワーをもらえるともおっしゃっていた。



### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

図 3-1 〈3 ヶ月ごとのガントチャート〉

		2019 年			2020 年				2021 年			
		4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10
(1)	資金調達	■	■	■								
(2)	物件の確保	■	■									
(3)	改修作業（リノベーション）			■	■	■	■					
(4)	人材確保		■	■	■							
(5)	宣伝						■	■	■	■	■	■
(6)	Third School 開校									■	■	■

図 3-2 〈立ち上げるために必要な資源（ヒト、モノ、カネ）〉

必要な資源		規模	調達方法
ヒト	改修作業 （リノベーション）	20 人	リノベーションのワークショップを開催し、参加者・講師・仁愛大学まちづくり研究室（早川ゼミ）で大掃除やペンキ塗り等の作業を行う。
	講師（ワークショップ）	3 人	専門的な人に依頼予定。
モノ	教室に置く机・椅子	各教室	教育委員会に、使わなくなった机・椅子を譲ってもらえないか交渉する。
カネ	備品購入費（5 教室）	250 万円※1	クラウドファンディング、企業協賛、越前市の補助金に応募等の方法で調達。
	人件費※2	18 万円※3	

図 3-3 〈継続していくために必要な資源（ヒト、モノ、カネ）〉

必要な資源		規模	調達方法
ヒト	教室の管理者	各教室に 1 人※4	運営者・協働運営者の中から役割分担をする。
	講師（図工室・家庭科室）	2 人	可能な限り越前市民から募集する。（共同運営者）
カネ	部屋・土地代（3 教室）	9 万円※5	「Third School」の利益、広告費※7、クラウドファンディング、企業協賛、越前市の補助金に応募等の方法で調達。
	人件費	13 万 5 千円※6	

※1:50 万円×5 教室

※2:ワークショップの講師の人件費

※3:2 万円×3 人×3 回

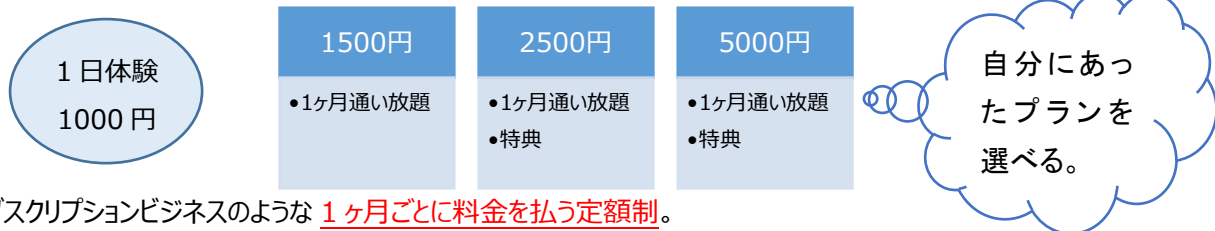
※4:既存の店舗を使う情報室、音楽室は除く

※5:借りた場合（1 ヶ月）

※6:時給 900 円×1 日 6 時間×5 日間×（管理者 3 人＋講師 2 人）

※7:商店街の店舗を「Third School」の教室や Web サイトで紹介し、広告費を得る

図 3-4 『Third School』の料金体系



- ・サブスクリプションビジネスのような 1ヶ月ごとに料金を払う定額制。
- ・継続的に契約してもらうために、LINE でイベント情報を発信、チャット機能を使い個人の質問に迅速に回答。
- ・武生商工会議所スマイリーカード会に加入し、『Third School』でもポイントを貯める、使えるようにする。

項目	規模	内訳
契約顧客数予測	500 人	H28 の中心市街地の人口は、65 歳以上の高齢者が 2261 人、64 歳以下が 3239 人。 そのうちの高齢者 1 割、それ以外 1 割が契約すると予測。
売上予測	88 万円	→契約者 1500 円×400 人 + 2500 円×90 人 + 5000 円×10 人 = 177 万 5000 円 + 体験者 1000 円×50 人 = 5 万円

『Third School』の運営体制

■ : 要調整    ■ : 調整済

